

氏名	金村尚彦	部署	理学療法学科	職名	教授
研究分野	基礎理学療法学, 運動器理学療法学, 神経科学				
学位	博士(保健学)				
学歴	広島大学大学院医学系研究科保健学専攻 博士課程 後期修了				
経歴	平成20年4月 埼玉県立大学 講師 平成24年 埼玉県立大学 准教授 平成28年 埼玉県立大学 教授				
所属学会(役職)	日本理学療法士協会, 米国神経科学学会, 日本解剖学会, 理学療法科学学会, 日本基礎理学療法学会, 専門リハビリテーション研究会(理事)				

【2015年度実績】

1. 研究業績					
	著作・論文・学会発表等の名称	単著・共著の別	(1)発行所、全ページ数 (2)雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ (3)学会名、開催都市	(1)(2)著者、編者名 (3)発表者(発表者は○印)	発行・発表年月
(1) 著作					
1	シンプル理学療法学・作業療法学シリーズ 運動器系解剖学テキスト	共著	南江堂 pp5-9,16		平成27年3月
2	運動器疾患の病態と理学療法	共著	医歯薬出版株式会社 pp282-299		平成27年12月
(2) 論文					
1	Tidal volume and diaphragm muscle activity in rats with cervical spinal cord injury	共著	J. Phys. Ther. Sci. 27: 791-794, 2015		平成27年3月
2	Immediate effect of passive and active stretching on hamstrings flexibility: a single-blinded randomized control trial	共著	J. Phys. Ther. Sci. 27: 791-794, 2015		平成27年11月
3	マウス下肢虚血の運動が酸化ストレスと血管新生因子に与える影響(査読付)	共著	理学療法-臨床・研究・教育 巻:23 号:16-20		平成28年1月
(3) 学会発表					
1	トレッドミル走行運動が老齢ラット血清における脳由来神経栄養因子の発現量に与える影響	共著	第50回日本理学療法学会 東京	金岡菜穂子, 才木涼, 新井南緒, 国分貴徳, 村田健児, 金村尚彦	平成27年6月5日~6月7日
2	カオス解析によるACL 損傷患者の下肢関節運動の制御	共著	第50回日本理学療法学会 東京	山下祐輔, 金村尚彦, 高柳清美	平成27年6月5日~6月7日
3	異なる速度のスクワット動作における相互作用トルクの影響	共著	第50回日本理学療法学会 東京	丸毛達也, 金村尚彦, 山崎弘嗣, 白銀暁, 国分貴徳, 藤野努, 塙大樹, 高柳清美	平成27年6月5日~6月7日
4	神経栄養因子バイオマーカーからみた走行運動の影響	共著	第50回日本理学療法学会 東京	金村尚彦, 村田健児, 森下祐里, 中島彩, 金岡奈緒子, 国分貴徳, 藤野努, 高柳清美	平成27年6月5日~6月7日
5	ラット前十字靭帯治癒過程における細胞生	共著	第34回関東甲信越ブロック 理学療法士会 甲府市	森下祐里, 金村尚彦, 国分貴徳, 村田健児, 高柳清美	平成27年9月12日~13日
6	異常関節運動の制動が関節軟骨に対する	共著	第34回関東甲信越ブロック 理学療法士会 甲府市	森下祐里, 金村尚彦, 国分貴徳, 村田健児, 高柳清美	平成27年9月12日~13日
7	トレッドミル走行運動が老齢期ラット脊髄におけるTrkBとGAP-43の発現に与える影響	共著	第34回関東甲信越ブロック 理学療法士会 甲府市	才木 涼, 金岡菜穂子, 新井南緒, 国分貴徳, 金村尚彦	平成27年9月12日~13日
8	Controlling the abnormal movement prevent the progression of knee osteoarthritis	共著	2015 OARSIworld congress on osteoarthritis, Seattle, Washington	Mitsui N, Kokubun T, Murata K, Kanemura N, Takayanagi K	平成27年4月30日~5月3日

9	Knee joint stability reduces the expression of caspase 3 mRNA after anterior cruciate ligament injury in a rat model	共著	The 50th Congress of the Japanese Physical Therapy Association, Tokyo	Murata K, Kokubun T, Kanemura N, Takayanagi K	平成27年6月5日～平成27年6月7日
10	Influence of knee joint stability and instability in anterior cruciate ligament injury	共著	The 50th Congress of the Japanese Physical Therapy Association, Tokyo	Murata K, Kokubun T, Kanemura N, Takayanagi K	平成27年6月5日～平成27年6月7日
11	Reinnervation ability on healing process of anterior cruciate ligament injury in adult rats.	共著	The 50th Congress of the Japanese Physical Therapy Association, Tokyo	Kanemura N, Koubun T, Morishita Y, Murata K, Fujino T, Takayanagi K	平成27年6月5日～平成27年6月7日
12	Knee joint stability reduces the expression of caspase 3 mRNA after anterior cruciate ligament injury in a rat model	共著	The 50th Congress of the Japanese Physical Therapy Association, Tokyo	Arai Nao Naohiko, Kokubun Takanori, Murata Kenji, Takayanagi Kiyomi	平成27年6月5日～平成27年6月7日
13	Effect of Balance Exercise Training on Neuromuscular Function after Peripheral Nerve Injury of Adult Rats	共著	9TH ISPRM WORLD CONGRESS – BERLIN, GERMANY	Kanemura N, Imagita H, Takemoto H, Murata K, Koubun T, Moriyama H, Takayanagi K	平成27年6月19日～平成27年6月23日
14	Study of the Effect of Joint Stability on Articular Cartilage and Biomarkers Using the Rat Osteoarthritis Model	共著	9TH ISPRM WORLD CONGRESS – BERLIN, GERMANY	K. Murata, T. Kokubun, N. Kanemura, A. Nakajima, Y. Morishita, T. Fujino, K. Takayanagi	平成27年6月19日～平成27年6月23日
15	Mechanotransduction in Anterior Cruciate	共著	9TH ISPRM WORLD CONGRESS – BERLIN, GERMANY	T. Kokubun, N. Kanemura, K. Murata, S. Morita, T. Jinno, K. Takayanagi	平成27年6月19日～平成27年6月23日
16	The Effect of Restricting Anterior Displacement	共著	9TH ISPRM WORLD CONGRESS – BERLIN, GERMANY	Morishita Y, Kanemura N, Kokubun T, Murata K, Takayanagi K	平成27年6月19日～平成27年6月23日
17	Inhibition of GABAergic synapses removes	共著	Neuroscience 2015, Chicago	Maejima H, Kanemura N.	平成27年10月17日～21日

(4) その他

1	該当なし				
2					
3					

2. 競争的資金等の研究

競争的資金等の名称	研究名、研究代表者・研究分担者の別	研究期間
1 日本学術振興会 科学研究費補助金（基盤研究C）	糖尿病の皮膚創傷治癒過程における血管新生とコラーゲン形成に関する形態学的研究 分担	平成27年4月から3月
2 埼玉県立大学 奨励研究費（C研究）	末梢神経損傷後の回復課程における運動の経時的効果 研究代表者	平成27年5月から1月
3 埼玉県立大学 奨励研究費（学長指定B研究）	損傷膝前十字靭帯の治癒過程における再神経化と運動療法の影響 研究代表者	平成27年5月から1月

3. 教育業績

講義・演習・実習・論文指導等の名称	期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
(1) 講義		
1 講義復習ビデオ教材の作成		埼玉県立大学保健医療福祉学部理学療法学科にて、運動学入門の講義について、Webを介したビデオ教材を作成し、学生が復習できる環境を設置した。個別学習履歴レポートにより、個々の学習の進捗状況が把握でき、個別指導が可能となった。
2 バイオメカニクス入門 webを介した学習プログラムの開発		学生を対象に、バイオメカニクス、解剖学、運動学などの基礎を学習するWeb上で学習できる教材を開発し、動作分析の基礎について自主学習プログラムを作成した。書籍の中では捉えにくい、動作分析の一助となっている。
3 理学療法基礎解析学演習		豚膝関節を対象に、膝関節内組織の解剖学、運動学的観点から観察する事ができ、また、靭帯損傷を想定した生整形外科テストなどを行い、正常状態と損傷状態をモデル化することで、その違いを実習することが可能となった。

(2) 演習			
1	該当なし		
2			
3			
(3) 実習			
1	該当なし		
2			
3			
(4) 論文指導			
1	卒業論文の指導		卒論論文 4名の指導を行った。
2	博士前期課程の指導		主指導 6名(1年 3名, 2年 3名)修士論文 3名の指導を行った。
3	博士後期課程の指導		主指導 1名
(5) その他			
1	該当なし		
2			
3			
4. 社会貢献活動			
(1) 講演会、研修会等の講師			
	講演会、研修会等の名称	主催	講演、研修等のテーマ
1	該当なし		
2			
3			
(2) 国、自治体、財団法人等における委員等			
	国、自治体、財団法人等の名称	委員等の名称	任期
1	第51回 日本理学療法学会	準備委員会 企画・学術局長	
2	社団法人 日本理学療法士協会	編集委員会 委員	
3	専門リハビリテーション研究会	理事・EBP推進部会長	
4	埼玉県理学療法士協会 理学療法一臨床	編集委員会 委員	
5	埼玉県県民健康福祉村 指定管理者候補 委員長		
(3) ジャーナリズムでの発言			
	メディア等の名称	内容	年月
1	該当なし		
2			
3			
5. 学内運営(委員会委員)			
1	大学院教務委員会		
2	共同実験管理部		
3	理学療法学科 15期生 担任		
6. 受賞(研究、教育、社会貢献活動に関するもの)			
	受賞名	主催	受賞年月
1	該当なし		
7. 特許の保有状況			
	特許名	特許番号	登録年月
1	該当なし		
8. 特記事項			
	該当なし		